

平成 29 年 1 月 30 日

次世代人工知能社会実装 WG における主な論点について（案）

- 自然言語処理技術及び脳情報通信技術の国内外の導入事例を調査し、技術の実用化への期待等について検討を行い、利用分野及び研究開発・社会実装に向けた諸課題を整理する。
 - ・ どのような利用分野を優先して考えるべきか
 - ・ どのような技術課題が解決されれば、実用に期待が持てるのか

- 自然言語処理技術や脳情報通信技術に関する「データの取り扱い（作成、収集、公表（外部共有）、管理）」等について、国・研究機関と民間企業等との間のデータ流通を活発にするための方策を議論する。このためプレゼンでは、データを持つ民間企業や、データを使いたい民間企業から国・研究機関への要望をヒアリングするほか、国・研究機関とこのような民間企業との間で意見交換を進める。
 - ・ データ流通を活性化させ、研究開発を促進させる仕組みはどうあるべきか
 - ・ 国・研究機関・企業の双方にメリットがあり公表（外部共有）できるデータ（今後作成すべきデータ）は何か
 - ・ データの作成、収集、公表（外部共有）、管理体制はどうあるべきか

※ データの著作権等の知財的な扱いに関しては、他の会議（内閣官房知財事務局の「新たな情報財検討委員会」）にて検討中であるため、本 WG の主な論点とはしない。

以上